

福岡大学病院 整形外科 卒後臨床研修プログラム

I. 特徴

福岡大学病院整形外科は脊椎を含む運動器の障害を的確かつ迅速に機能回復させることを目的に診療を行っている。また、局所ばかりでなく運動器全体を見据え、患者さんと十分に相談し、最も適切な医療を提供できるようにするための「患者さん中心の医療」が特徴である。卒後臨床研修では整形外科疾患の診療法および基本的手技の習得が可能である。

II. 診療科概要

整形外科専門医 18 名が指導している。整形外科新患数は毎年約 2500 名程であり、手術症例は 1300 例以上と、豊富な症例を学び、十分な研修を積むことができる。

III. 研修目標

基本的な整形外科疾患の知識、診療法及び手技を習得する。さらに、外来や病棟での医療面接技術を習得し、医師としての責任感や態度を涵養する

IV. 研修内容

以下のいずれかの班に所属し指導医のもとで患者を担当する。

1. 股関節・小児 2. 肩関節 3. 手外科・肘関節・腫瘍 4. 膝関節・関節リウマチ
5. 足の外科 6. 脊椎・脊髄

- (1) 受け持ち患者を指導医とともに診察し、受け持ち患者をプレゼンテーションする。
- (2) 病棟業務（処方・検査などのオーダー、周術期管理など）を行う。
- (3) 所属班の手術に参加する。
- (4) 外来診療を見学する。
- (5) 診療録の記載を行う。
- (6) 診療経験を各自記録する。
- (7) 受け持ち患者の治療に関連する論文を検索し、知識を獲得する。

V. 週間スケジュールと教育に関する行事

週間予定表

		8:30	17:30
月	※手術日 医局会 術後カンファレンス 教授回診	外来 脊椎外来 肩外来 病棟業務	足の外科外来 骨粗鬆症外来 病棟業務
火	※手術日	スポーツ外来 病棟業務	股関節外来 小児外来 病棟業務
水	※手術日 病棟医長回診	骨・軟部腫瘍外来 手外科外来 病棟業務	リウマチ外来 手外科外来 病棟業務
木	※手術日	外来 脊椎外来 病棟業務	病棟業務
金	※手術日 術前カンファレンス 准教授回診	外来 病棟業務	病棟業務

VI. 教育項目

研修期間中に次の知識と技能を習得させる。

- (1) 患者とのコミュニケーション技法、医療面接
- (2) インフォームドコンセント
- (3) 整形外科的診察法（骨・関節・筋肉系の診察と記載、神経学的診察と記載）
- (4) 基本的な検査（単純 X 線検査、造影 X 線検査、X 線 CT 検査、MRI 検査、筋電図）
- (5) 基本的整形外科手技（注射法、関節穿刺、縫合）
- (6) 骨折の管理（徒手整復、シーネ・ギプス固定、鋼線牽引法）
- (7) 周術期管理（輸液管理、抗菌薬使用、ドレーン管理、包交、合併症予防・対応）
- (8) 自己血輸血、同種血輸血の実施
- (9) 初期緊急対応（開放骨折、コンパートメント症候群、化膿性関節炎）

研修プログラム責任者

責任者：山本 卓明

副責任者：前山 彰

VII. 指導医一覧

(全指導医が日本整形外科学会認定専門医である)

教授

山本 卓明 (股関節疾患、スポーツの外傷・障害)
吉村 一郎 (足の外科疾患、スポーツの外傷・障害)

准教授

前山 彰 (関節リウマチ、膝関節疾患、スポーツの外傷・障害)
鎌田 聡 (リハビリテーション)

講師

木下 浩一 (股関節疾患、骨盤外傷、スポーツの外傷・障害)
田中 潤 (脊椎・脊髄疾患)
萩尾 友宣 (足の外科疾患、関節リウマチ、スポーツの外傷と障害)
三宅 智 (肩関節疾患、上肢外傷、スポーツの外傷・障害)
村岡 邦秀 (手外科疾患、肘関節疾患、末梢神経障害、スポーツの外傷・障害)

助教

塩川 晃章 (脊椎・脊髄疾患)
瀬尾 哉 (股関節、外傷、小児整形)
石松 哲郎 (膝関節外科、スポーツの外傷・障害、足の外科疾患)
廣田 高志 (手外科疾患、肘関節疾患)
中山 鎮秀 (骨・軟部腫瘍)
松永 大樹 (股関節疾患、膝関節疾患、スポーツの外傷・障害)
柴田 光史 (肩関節疾患、関節リウマチ)
柴田 達也 (脊椎・脊髄疾患)
土肥 憲一郎 (股関節疾患、スポーツの外傷・障害、リハビリテーション)